

徳川忠長の墓（駿河大納言忠長廟所）

徳川忠長について

徳川忠長は、徳川二代将軍秀忠の次男として、慶長 11 年（1606 年）5 月 7 日に生まれた。母は江与姫（浅井長政の娘）である。幼時から頭が良く、才気活潑、勇気もあった。両親の愛は長男の家光（幼名 竹千代）より忠長（幼名 国松）に集まり、特に母は、忠長を世継ぎにと思っていたようだ。

忠長は、元和 3 年に小諸 15 万石、寛永元年に駿河遠江 55 万石駿河城（現在の静岡城）の大名となった。寛永 3 年には権大納言になった。このため、徳川忠長のことを「駿河大納言」と呼んでいる。

忠長が天下の世継ぎに、そんなことがあっては大変と、家光の側近、特に春日局は徳川家康の許へ行き内密に訴えた。そこで、家康の裁断となって家光が世継ぎと決まった。

忠長は 55 万石の大名では不満で大阪城を希望したが、聞き入れられず、さらに母にも死別し失意の人となってしまい、その後父の秀忠の存命中の寛永 7 年（1630 年）乱行のかどによって、所領没収の上甲斐（現在の甲府市）に幽閉され、父秀忠の死後同 9 年に高崎城に移された。翌年寛永 10 年（1633 年）12 月 6 日、死を命ずる使者、阿部対馬守を迎えた。忠長はこれを知り、高崎城中に自刃して果てた。齢 28 歳であった。

遺体は、大信寺（11 世心誉上人の代）に葬られ、そこに「遺愛の松」が植えられた。松は「わたかけの松」として江戸時代より有名であったが、昭和の初期に枯れてしまい、現在は大信寺の庫裡の天井板になっている。

忠長の墓は、忠長死後 43 年の延宝 3 年 11 月に建てられ、罪の赦された忠長の法名は、「峰巖院殿前巫相清徹暁雲大居士」という。

このため、大信寺は幕府より供養料として 100 石を受け、以前から受けていた 7 石と加えて 107 石となった。将軍の弟の菩提所であったため、中仙道を通る参勤交代の諸大名はみな、この墓所の前を通るときは駕籠からおりて歩いたという。または、片足だけでも駕籠から出したといわれている。

忠長の死後、供養のためにと千姫（忠長の姉）から忠長の生前中に使用した遺品が寄附されたが、それらはすべて高崎市教育委員会の文化財となっている。

- | | | |
|------------|----------|-------------|
| 1. 忠長自刃の短刀 | 2. 忠長の手紙 | 3. 豊臣秀頼の陣羽織 |
| 4. 什器類 | 5. 忠長の靈碑 | 6. 朱印状 |

質問にお答えします

1、このお寺は 1570 年(元龜元年)に総誉清巖というお坊さんが高崎市箕郷町西明屋に作りました。当時は戦国時代で織田信長と浅井・朝倉連合軍が滋賀県の姉川で戦争をしていた時代です。日本のどこでも戦争がありました。その結果、多くの戦死者が出たり田畑を戦争で荒らされた農民たちが飢えに苦しみ多くの死者が出ました。これを見た総誉清巖というお坊さんがこのままでは可哀想と思い、戦死者や餓死した人達を葬りました。念仏を唱え死者の冥福を祈り人々の心の安寧(あんねい)をはかりました。これがこのお寺を作るきっかけになりました。

2、このお寺では毎朝お経を読み、念仏を唱えることを勤行といいます。勤行(おつとめ)はお坊さんの義務なのです。先に亡くなった人達の冥福を祈り自分の修行をするのです。自利利他の実行をしているのです。

3、お墓は昔(江戸時代以前)一人に一基建てました。一人の人が亡くなると一本、または夫婦で一本でした。しかし、明治時代(150 年前)から一件の家一本の墓が作られるようになりました。江戸時代以前は土葬といって土に穴を掘りその中に亡くなった人を入れました。今は火葬と言って火で遺体を焼き、その骨を墓に埋めます。だからたくさんのお墓があります。

4、このお寺は大信寺といいます。浄土宗という宗派で念仏を唱えることが主な修行です。この念仏を唱える事が大信(大きな信仰)大行(大きな行為)に通じるので大信寺と名前をつけました。